取扱説明書

この取扱説明書はご使用になる前に必ずお読みください

歩行車
ライフ フィット

【目次】

このたびは、エーアイジェイの歩行車をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書は、製品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。
介護される方もご一緒にお読みいただき、正しく安全な取扱方法をご理解のうえ、ご使用ください。

取扱説明書はお読みになられた後も、いつでも見られるところに保管してください。
また、ご不明な点がございましたら、お買い求めの販売店、または弊社までお問い合わせください。
本製品は改良などの仕様変更により、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。

株式会社　エーアイジェイ

1. 各部の名称と部品の確認

各部の名称

①ハンドグリップ……… 歩行される際に握る部分です。

②ブレーキレバー（左右）・駐車ブレーキ ……… ブレーキをかける時は握ってください。

……… レバーを押し下げると駐車ブレーキがかかります。

③杖ストラップ……… バッグのサイドポケットと杖ストラップを使い、杖の収納、持ち運びができます。

④高さ調節ボルト（左右）……… ハンドルの高さを調節する際に使います。６段階調節できます。

⑤座面 ……… 座る際には閉じ、座面下のバッグに物を入れる場合は上に開きます。

⑥フレームリンク ……… 車体をひろげる際に使います。左右のリンクが完全に開くまで押します。

⑦ブレーキ金具 ……… この金具で車輪を押し付け、ブレーキがかかります。

⑧後輪（左右）……… 旋回しない車輪です。横すべりを防止します。

⑨ブレーキ調節ネジ……… オレンジ色の調節ネジでブレーキの効き具合を調節します。

⑩リンクバー ……… バッグ底のベルトをこのバーに取り付けます。

⑪前輪（左右）……… 自在に旋回し方向転換ができます。

⑫キャスターパイプ部 高さ調節ボルト（前後左右）……… 座面の高さを調節する場合に使います。

⑬バッグ ……… 容量13ℓの大型バッグで取り外しができます。5kg までの荷物が収納できます。

⑭ブレーキワイヤー ……… ブレーキや駐車ブレーキを操作するためのワイヤーです。

⑮背もたれ ……… 座面に腰掛けるときに使います。

＊ハンドル部 高さ調節ボルト（左右）とキャスターパイプ部 高さ調節ボルト（前後左右）は、共通部品です。

部品の確認

本体 X 1

背もたれ X 1

杖ストラップ X 1

高さ調節ボルト X6

ハンドル部 高さ調節ボルト（左右）とキャスターパイプ部 高さ調節ボルト（前後左右）は、共通部品です。

前輪キャスター X 2

取扱説明書 X 1

2. 安全に関するご注意

＊ご使用になる前に必ずお読みください。
＊ここに示した注意事項は、製品を安全にお使いいただき、あなたや他人の危害を未然に防止する為のものです。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

[表示マークの説明] ＊正しい取り扱いに関する必要事項をシンボルマークで表示しています。

表示マーク	説明
⚠ 警 告	取り扱いを誤った場合に死亡または重傷にいたる可能性が想定される事を示しています。
⚠ 注 意	取り扱いを誤った場合に、傷害にいたる可能性または物的損害の発生が想定される事を示しています。
🛇 禁 止	してはいけないこと（禁止内容）を示しています。
❗ 必ず守る	必ずしなければならないことを示しています。

（生命にかかわるケガをする恐れが想定される内容を示しています。）

禁 止

- この製品は、自立歩行を補助する為の「歩行車」です。それ以外の用途には使用しないでください。
- この製品は体重１００ｋｇを超える方が使用されると、本体が破損・変形してケガをする恐れがあります。この製品の耐荷重（最大使用者体重）を超える方は、使用しないでください。
- 転倒してケガをする恐れがありますので、歩行が大変困難な方、正しく操作ができない方（認知症や小さなお子さまなど）には使用させないでください。
- 駐車ブレーキをかけない状態で、歩行車から離れないでください。歩行車が動いて事故やケガをする恐れがあります。歩行車の周りの物を取るときや、休憩などで歩行車から離れる場合は、必ず左右の駐車ブレーキを確実にかけてください。
- 駐車ブレーキをかけたまま走行したり、引きずったりしないでください。転倒し、ケガをする原因となります。
- 走行中、片方だけのブレーキ操作はしないでください。反対側の車輪だけが旋回し、バランスを崩し、転倒する恐れがあります。走行中にブレーキをかける時は、必ず両手でハンドルを握って、左右両側のブレーキを同時にかけてください。
- 片側のみに重心を掛けて使用しないで下さい。バランスを崩し転倒してケガをする恐れがあります。
- バッグの中以外の場所に荷物を掛けたり、載せたりしないで下さい。重心が不安定になり、転倒してケガをする恐れがあります。
- 高さ調節ボルトが１箇所でもゆるんだ状態で歩行車を使用しないでください。高さ調節ボルトは、６箇所とも確実に締め付けた上でご使用ください。ゆるんだ状態で使用されますと、高さ調整ボルトがはずれ、歩行車がバランスを崩すことになり、転倒しケガをする恐れがあります。
- 屋外に放置しないでください。サビなどにより製品が劣化します。保管は屋内で行なってください。
- 歩行車を火気に近づけないでください。プラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど危険です。熱湯消毒についても同様です。
- 絶対に改造・分解をしないでください。強度や耐久性が劣化して危険です。また、事故の原因となります。
- 段差を決して勢いをつけて乗り越えないでください。転倒しケガをする恐れがあり、大変危険です。フレーム及び車輪等の損傷の原因となります。段差の前では一旦停止して前輪を持ち上げて乗り越えてください。
- 複数の人数で使用しないでください。この歩行車は一人用です。破損・事故の原因となります。
- ブレーキレバーは作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。
- 介助者は車輪の向きを変えるなど、利用者の意図していない無理な力をかけて歩行補助をしないでください。
- 歩行車を投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。
- 大きな段差のある場所・階段では使用しないでください。
- 坂道や傾斜のあるところで駐車しないでください。安定性が悪くなり、転倒の恐れがあり大変危険です。傾斜地では駐車ブレーキをかけても歩行車が動く場合があり、大変危険です。滑りやすい床面では駐車ブレーキをかけても歩行車が動く場合があります。
- 踏み切りを横断の際は、斜めの角度で進入しないでください。車輪がレールの溝にはさまる可能性があります。必ず介助者と渡ってください。

- 道路通行の際は、必ず右側通行をしてください。また、歩道を通行してください。
- ご使用になる前には、15ページの「点検・保守」をよくお読みいただき、点検を行なってください。思わぬケガをする原因となります。

⚠注 意

禁 止

●可動部（車輪、ブレーキ、フレーム連結ステーなど）に指や手を挟まないようにしてください。ケガの原因となります。

●走行する際には片手で操作しないでください。傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。ハンドルは必ず両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。

●バッグには、５ｋｇ以上の荷物は入れないでください。また鋭利なものやペットを入れないでください。破損や思わぬ事故の原因となります。

●フレームに足をかけたり、乗った状態で使用しないでください。フレームの破損、転倒の原因となります。

●下記のようなところに歩行車や部品を放置しないでください。

・ 車道に近いところ　・人通りのあるところ　・路面に段差や凹凸があるところ
・ 湿気の多いところ　・雨風の当たるところ　・海沿いの屋外（潮風の当たるところ）
・ 直射日光の当たるところ（車内も含む）　・ストーブなど火気を使用し高温になるところ
・ ほこりの多い場所　・子どもがいたずらをする恐れのある場所
・ 非常口、消火器、消火栓の前　・坂道

●暑い日や寒い日の屋外（事故やサビ・破損の原因となります。）

必ず守る

●ハンドルの高さは、必ず左右同じ高さにしてください。

●ブレーキは必ず手で操作してください。他の物でブレーキ操作しないでください。

●回転している車輪に指等を差し込まないように注意してください。

●傾斜地での走行は、歩行車が予想外の方向に進むなど大変危険です。また転倒の原因となります。十分に注意して走行してください。

●雨ざらしにしたり、雨・雪の日の使用、ぬかるみ、水たまり等のある場所でのご使用はお避けください。車輪のサビ等により故障の原因となります。

●次のような場所・状況でのご使用は危険です。使用を避けるか、介助者に同行してもらってください。

・ エスカレータ　・階段　・坂道　・ぬかるみ　・踏み切り　・交通量の多い道路
・ 防止柵のない側溝や路肩付近など　・凹凸の激しい道　・夜間、雨や雪、風の強い日
・ 凍結路　・深い砂利道や砂道　・その他危険が予想される場所

●夜間や、雨降り時は通行者や車から発見しにくくなります。十分にご注意ください。

●発進するときや段差を乗り越えるときには、車輪が真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください

・ 斜めに進入したり、車輪が斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、車輪の破損や車輪からタイヤが外れる原因になったり、事故の原因となる恐れがあり大変危険です。

●正しく操作が出来ない方は使用しないでください。

3. 歩行車の使い方

<1> 組立て方法

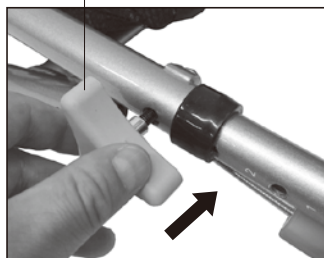
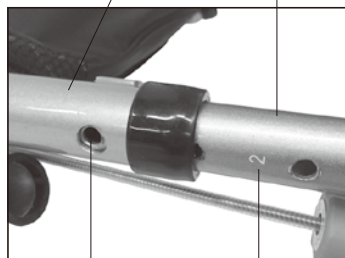
①

①歩行車のブレーキレバーが上を向くように、床に置いてください。

②

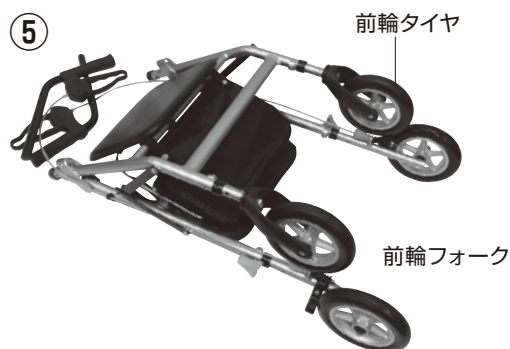
②後輪タイヤのホイールを外側に向けて、左右それぞれを後輪パイプに差し込んでください。
（この場合、ブレーキ金具も外側の向きになります。）

<注記>
■ブレーキワイヤーを無理に引っ張らないでください。

③

③後輪タイヤのパイプの穴位置を後輪パイプの穴位置ににあわせ、左右それぞれを高さ調節ボルトでしっかりと締め付けて固定してください。

<注記>
■穴位置は左右同じ目盛にあわせてください。
■高さ調節ボルトは左右ともパイプの外側から内側に向けて差し込み、取り付けてください。

④本体を裏返してください。

⑤前輪フォークを下側に下げ、左右それぞれを前輪パイプに差し込んでください。

⑥③と同様に前輪タイヤのパイプの穴位置にあわせ、左右それぞれ高さ調節ボルトでしっかりと締め付けて固定してください。

<注記>
■穴位置は③で取付けた後輪タイヤと同じ目盛にあわせてください。
■高さ調節ボルトは左右ともパイプの外側から内側に向けて差し込み、取り付けてください。

⑤

⚠ 警 告	左右の後輪タイヤは、ホイールが外側になるように組み立ててください。内側にすると安定性が低下しバランスをくずします。またブレーキも正常に作動しません。転倒してけがをするおそれがあります。

⑦

⑦左右のハンドルをフレームパイプに差し込んでください。

⑧

⑧必要な高さ位置の穴を選び、高さ調節ボルトを差し込んでください。（高さ調節ボルトは外側から内側に向け差し込んでください。）
左右同じ高さが確認できれば、高さ調節ボルトを廻し確実に締め付けてください。

<注記>
■高さ調節ボルトは左右とも同じ高さにして確実に締め付けてください。
■ブレーキワイヤーが高さ調節ボルトに引っ掛からないようにしてください。

⚠ 警 告	高さ調節ボルトは左右高さが違ったり、ゆるんだまま使用されますと、歩行車がバランスをくずし転倒してけがをするおそれがあります。

⑩

⑨ハンドルを下に押しながら、全体を広げてください。

⑩左右のフレームリンクが完全に開くまで上から押してください。

⑪ブレーキワイヤーを引き上げ、ワイヤーガイドの上側でたるませてください。

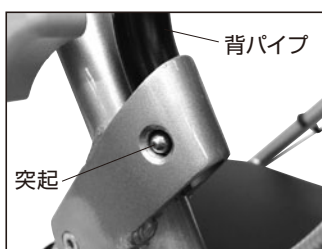
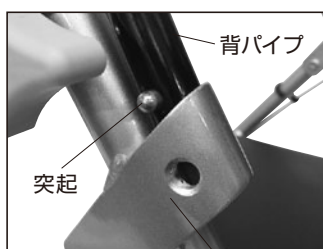
⚠ 注 意	・フレームリンクに指や手を挟まないよう注意してください。

⑪

<注記>
■ブレーキワイヤーのたるみは高さ調節ボルトに引っ掛からないように調整してください。

⑬

⑫左右の駐車ブレーキをかけてください。
（11 ページ「ハンドブレーキの操作方法」参照

⑬背もたれを前輪タイヤ側に向け、背パイプの突起を押しながら、背パイプ固定ブラケットに「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

⑭背もたれ両端を軽く引き上げ、外れないことを確認してください。

＜完成図＞

⚠ 警 告	ワイヤーガイドの下側にブレーキワイヤーのたるみがないことを確認してください。ワイヤーガイドの下側でたるんでいると足などを引っかけ転倒する危険があります。またブレーキが効かなく恐れがあります。

<2> 車体のひろげ方・折りたたみ方

車体のひろげ方

＜注記＞
■車体をひろげる前に両側のパーキングブレーキがかかっていることを確認してください。

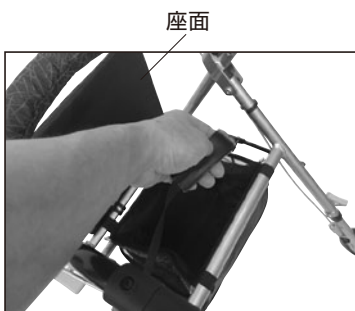
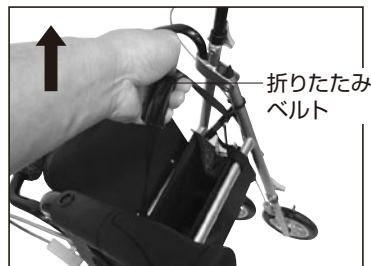
①両手でハンドルを持ち、押し下げながら車体を前後に広げてください。

②バッグ内部に手を入れ、底布の部分からバッグ中底裏のパイプを強く真下に押し込んでください。

③フレーム前後を結んでいる両サイドのフレームリンクが完全に開くまで上から押してください。

⚠注 意	・フレームを開閉するときは、開閉レバーと金具の間に指を挟まないように注意してください。

車体の折りたたみ方

＜注記＞
■車体を折りたたむ前に必ず両側のパーキングブレーキがかかっていることを確認してください。
■折りたたみの際は、手や指を挟まないように注意してください。

①座面を開き、バッグに収納されている折りたたみベルトを持ちます。

②折りたたみベルトを上に引き上げてください。

③背もたれとハンドルを持ち、前輪を浮かせて後輪に近づけながら折りたたんでください。

⚠注 意	・車体を折りたたむ前に必ず両側のパーキングブレーキをかけてください。 ・折りたたみベルトを引き上げるときは、空いている手でハンドルを持ち、本体がぐらつかないようにしてください。転倒してけがをするおそれがあります。 ・折りたたみ状態の場合、歩行車は倒れやすく不安定です。寄りかかると転倒してけがをするおそれがあります。 ・折りたたみ状態の場合、自立しません。壁に立てかけるなどしてください。

<3> ハンドル部の高さ調節

<注記>
■車体をひろげる前に両側のパーキングブレーキがかかっていることを確認してください。

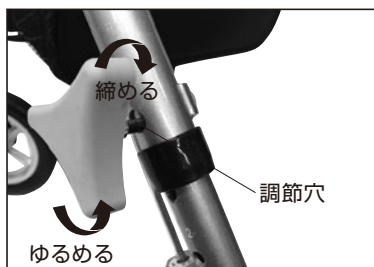
①高さ調節ボルトをゆるめて外し、必要な高さに合わせてください。

②高さは6段階に調節できます。左右同じ高さであることを確認し、しっかりと締め付けて固定してください。

<注記>
■高さ調節ボルトは左右ともパイプの外側から内側に向けて差し込み、取り付けてください。
■高さ調節を行った場合は、必ずブレーキワイヤーのたるみを確認してください。
（7ページ「組立て方法」⑪参照）

⚠警告	左右の高さが違ったり、高さ調節ボルトがゆるんだまま使用されますと、歩行車がバランスをくずし、転倒して事故やけがをする恐れがあります。

<4> キャスター部の高さ調節

<注記>
■車体をひろげる前に両側のパーキングブレーキがかかっていることを確認してください。

①高さ調節ボルトをゆるめて外し、必要な高さに合わせてください。

②高さは4段階に調節できます。左右同じ高さであることを確認し、しっかりと締め付けて固定してください。

<注記>
■高さ調節ボルトは左右ともパイプの外側から内側に向けて差し込み、取り付けてください。
■高さ調節を行った場合は、必ずブレーキワイヤーのたるみを確認してください。
（7ページ「組立て方法」⑪参照）

警告

・左右の高さが違ったり、高さ調節ボルトがゆるんだまま使用されますと、歩行車がバランスをくずし、転倒して事故やけがをする恐れがあります。
・高さ調節は座面に人が座っていない状態で行ってください。転倒してけがをしたり、歩行車が破損・変形する恐れがあります。
・高さ調節ボルトは、4箇所とも同じ高さにして確実に締め付けてください。1箇所でも高さが違ったりゆるんだ状態で使用すると、歩行車がバランスをくずし、転倒してけがをする恐れがあります。

<5> ハンドブレーキの操作方法

①ブレーキのかけ方

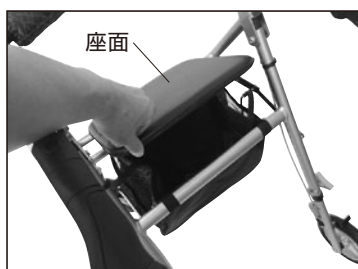
●ブレーキレバーに指をかけ、強く握るとブレーキが効きます。
●ブレーキをかけたときに左右の後輪がしっかり止まっていれば正常です。
●握った指を離すとレバーは元に戻り、ブレーキが解除されます。

②駐車ブレーキのかけ方

●ブレーキレバーをカチッと音が鳴るまで押し下げる。駐車ブレーキがかかり、後輪がロックされます。
●ブレーキをかけたときに左右の後輪がしっかり止まっていれば正常です。
●駐車ブレーキを解除したいときは、再度レバーを引き上げると解除されます。

⚠ 警 告	●走行中、片方だけのブレーキ操作はしないでください。反対側の車輪だけが旋回し、バランスを崩し、転倒する恐れがあります。走行中にブレーキをかける時は、必ず両手でハンドルを握って、左右両側のブレーキを同時にかけてください。 ●駐車ブレーキをかけたまま走行したり、引きずったりしないでください。転倒し、ケガをする原因となります。
⚠ 注 意	●ブレーキ操作の時に、ハンドグリップとブレーキレバーの間に指を入れないでください。指をはさんでケガをする恐れがあります。 ●傾斜地では駐車しないでください。傾斜地では駐車ブレーキをかけても歩行車が動く場合があり、大変危険です。

＜6＞ バッグの使い方

＜注記＞バッグの最大積載量は5kg です。

バッグを使用する際は、座面を上へあげてください。

内側にほこりなどが入るのを防ぐためのカバーが付いています。

⚠ 警 告	●バッグに乳幼児などを乗せたりしないでください。転落・転倒によりけがをしたり、歩行車が破損・変形する恐れがあります。またバッグのベルトが外れてけがをしたりバッグを破損させる恐れがあります。 ●バッグの中には5kg 以上のものを入れないでください。歩行しづらいだけでなく、転倒してけがをしたり、歩行車やバッグが変形・破損する恐れがあります。 ●バッグの中に物を入れる際は、折りたたみベルトの上に載せないでください。歩行車が不意に折りたためられてけがをしたり、バッグが歩行車から外れたり、破損する恐れがあります。
⚠ 注 意	●座面の上に物を載せたまま座面をあげないでください。また座面をあげる際に無理な力を加えないでください。座面が破損する恐れがあります。 ●座面をあげたまま座らないでください。けがをしたり、座面やバッグが破損する恐れがあります。

＜7＞ バッグの取り外し方・取り付け方

バッグの取り外し方

①左右の駐車ブレーキをかけ、座面をあげてください。
②バッグ上部（4箇所）の固定バンドを外してください。
③バッグ底（2箇所）の固定バンドを外してください。
④バッグを取り外しします。

バッグの取り付け方

⑤左右の駐車ブレーキをかけ、座面をあげてください。
⑥折りたたみベルトをフレーム連結パイプ（後部）にかけてください。
⑦バッグ底（2箇所）の固定バンドをリンクバーに取り付けてください。
⑧折りたたみベルトをフレーム連結パイプ（後部）にかけて、バッグ上部固定バンド（4箇所）を前後部の連結パイプに取り付けてください。

＜注記＞各固定バンドのホックはパチッと音がするまで確実に取り付けて、折りたたみベルトを必ずバッグの中に入れてください。

<8> 腰掛け方・立ち上がり方

■腰掛け方

①本体が動かないように、必ず左右両側の駐車ブレーキをかけてください。
（11 ページ「ハンドブレーキの操作方法」②参照）
②しっかりと駐車ブレーキがかかった状態であることを確かめてから両手でハンドルを握り、体の安定を保ちながらゆっくりと座面に腰をおろしてください。

■立ち上がり方

①左右両側の駐車ブレーキがかかっているか、必ず確かめてください。
（11 ページ「ハンドブレーキの操作方法」②参照）
②両手でハンドルを握ってください。
③体を支え、本体が動かないことを確かめながら、ゆっくりと立ち上がってください。

! 必ず守る	・座面に座るときは、必ず左右の駐車ブレーキをかけた状態にしてください。 歩行車が動き、けがをする恐れがあります。 ・立ち上がる際は、必ず駐車ブレーキがかかっているか確認してください。

⚠ 警 告	●坂道や傾斜のあるところでは、絶対に腰掛けないでください。転倒のおそれがあり、大変危険です。 ●ハンドルの片方だけに力を入れて立ち上がろうとすると、転倒し、ケガをする恐れがあります。 ●歩行車を押し出すように立ち上がらないでください。歩行車が動き、ケガをする恐れがあります。
⚠ 注 意	●耐荷重（使用者最大体重）は 100kg です。それ以上の体重の方はご使用になれません。 ●すべりやすい床面ではブレーキが効かず、動くことがありますのでご注意ください。 ●座面に座る場合は、座面に無理な力を加えないでください。座面が破損する恐れがあります。

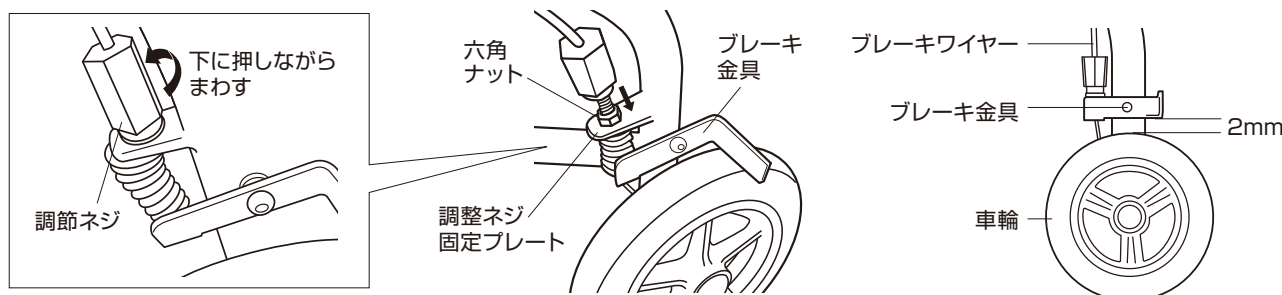
<9> 杖ストラップの使い方

①杖ストラップをハンドル部に取り付けてください。ホックがパチッと音がするまではめ込み、外れないか確認してください。

②バッグのサイドポケットに杖の先端を収納してください。

杖を取り付けた状態

③杖をストラップで巻きつけ、マジックテープで留めてください。ハンドル部にしっかりと固定されているか確認ください。

4. ブレーキの調節方法

ブレーキの効きを強くするとき

●調節ネジを下に押しながら、反時計回りの方向にまわし、ブレーキ金具のすき間を調節します。
●六角ナットを調節ネジ固定プレートに接触するまで下に回しながら下げ、固定してください。
●車輪とブレーキ金具のすき間が約2mmになったところが調節の目安です。

＊ブレーキ調節を行なっても改善されない場合は、お買い求めの販売店までお問い合わせください。

⚠ 注 意	●調節ネジを時計回りの方向にまわすと、ブレーキの効きが弱くなります。 ●ブレーキ金具と車輪とのすき間が約2mmになるように調節をしてください。 ●ブレーキ調節の後は必ずブレーキレバーを操作し、ブレーキが確実に効くことを確認してください。

5. ご使用前の点検

歩行車を使用する前に、安全のため各部の点検を行なってください。

●装着品の確認
・バッグのベルトはフレームにしっかりと取り付けられていますか？
・杖ストラップのホックはしっかりとはめこまれ、パイプから外れませんか？

●ハンドルの確認
・取り付けボルトはしっかりと締められていますか？
・ハンドルの高さは左右同じですか？

●ブレーキの確認
・ブレーキをかけた状態で後輪が回転しませんか？効きは弱くないですか？
・駐車ブレーキをかけた状態で、後輪にしっかりと駐車ロックがかかっていますか？

●車輪
・車軸にしっかりと固定されていますか？
・スムーズに回転しますか？
・車輪は磨耗していませんか？

●その他全般
・ガタツキはありませんか？
・まっすぐに走行できますか？
・各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
・ワイヤーが部品等に引っかかっていませんか？

	確認を行わず、正しく作動しない状態でお使いいただくと、転倒やケガの原因となります。

6. お手入れの方法

●汚れの除去は、市販の中性洗剤を用いてください。本体の水気は乾いた布でふきとり、日陰で乾燥させてください。
●バッグは洗濯しないでください。汚れが目立つ場合は、柔らかい布でふき取ってください。日陰で乾燥させてください。

●フレーム（車体）や車輪についた泥や砂を放置したままにしないで、必ず落としてください。
●よく絞った布で、土やほこりをふき取ってください。
●雨水に濡れたら、それらの水気を十分にふき取ってください。乾いた布で水分をとり日陰で乾燥させてください。

⚠注 意	●シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。変質・変色・傷みの原因となります。 ●たわし、みがき粉、硬いブラシは使用しないでください。傷みの原因となります。 ●熱湯で洗浄しないでください。変質・変色の原因となります。

7. 保管方法

●雨ざらしにしないでください。サビや劣化の原因となります。また長期間ご使用にならない時は、汚れを落とし歩行車を折りたたんだ上、日陰で保管してください。
●寒いとき、暑いときには屋外に置かないでください。バッグが変色したり、硬化してトラブルの原因になる恐れがあります。
●潮風の当たる場所、直射日光の当たる場所に保管せず、必ず屋内で保管してください。変形・変質・サビなどの原因となります。
●下記のようなところに歩行車や部品を放置しないでください。（事故やサビ、破損の原因となります。）
・車道に近いところ　・人通りのあるところ　・路面に段差や凹凸のあるところ　・湿気の多いところ
・ほこりの多い場所　・子どもがいたずらをするおそれのある場所　・非常口、消火器、消火栓の前　・坂道や傾斜地

8. 点検・保守

●ハンドルがしっかり固定されていますか？
ハンドルの高さ調節ボルト（左右）を締めこんだとき、しっかりと固定しているか確認してください。
●高さ調節ボルトがゆるんでいませんか？
高さ調節ボルトは、６箇所とも確実に締め付けた上でご使用ください。1箇所でもゆるんだ状態で使用されますと、高さ調整ボルトがはずれ、歩行車がバランスを崩すことになり、転倒しケガをする恐れがあります。
●ネジの緩みはありませんか？
ネジの緩みがないことを確認してください。ネジが緩んでいたら必ずしっかりと締めてください。締めてもすぐ緩む、締まらないなどの不具合があれば、直ちにご使用をお止めいただき、すぐにお買い求めの販売店までご連絡ください。
●ブレーキはしっかり効きますか？
ご使用前には必ずブレーキの効き具合を確認し、効きが悪いときにはご使用をお止めいただき、すぐにお買い求めの販売店にご連絡ください。
●各車輪が地面にしっかり接地していますか？
平らな場所で４輪すべての車輪が接地していることを確認してください。４輪全てが接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。
●車輪の変形や磨耗はありませんか？
各車輪がスムーズに回転するか、前輪がスムーズに首振りするか、ごみが付着していないかを確認してください。
●ハンドグリップは固定されていますか？
ご使用前には必ずハンドグリップがしっかりと固定されているかを確認してください。
●ブレーキワイヤーは切れていませんか？
ブレーキが効かなかったり、転倒するなど大変危険です。
●音鳴りがしませんか？
異音がする場合、どこでその音が発生しているかを確認してください。原因が不明な場合は、お買い求めの販売店までご連絡ください。
●消耗部品の交換は必要ですか？
車輪、ブレーキワイヤー等は消耗部品です。消耗部品の磨耗がないか確認し、異常や磨耗が発見された場合には交換してください。（消耗品については、17ページ「保証とアフターサービス」項目４、消耗部品をご覧ください。）

	異常が見つかったら、直ちにご使用を中止して、お買い求めの販売店へご相談ください。

9. こんな時は

状況	原因	対処方法
ブレーキ、 駐車ブレーキが 効かない	ブレーキワイヤーの断線や折れ曲がり	ブレーキワイヤーの交換（お買い求めの販売店へ）
	車輪とブレーキ金具のすき間が広い	調節ネジを回し車輪とブレーキ金具のすき間調節を行なってください。
	タイヤの磨耗	車輪の交換（お買い求めの販売店へ）
	ブレーキ金具のねじれ、曲がり	ねじれ、曲がりを修正してください。
	車輪の破損	車輪の交換（お買い求めの販売店へ）
ハンドルがぐらぐら動く	ハンドルの高さ調節部がきちんと固定されていない	ハンドル高さ調節部分の固定ボルトが穴にきちんとセットされているか、しっかりと締められているか、確認してください。
車輪の回転がスムーズでない。直進性も悪い	車輪の片べりや損傷	車輪の交換（お買い求めの販売店へ）
水平な場所でも歩行車全体が前後左右に傾く	タイヤの磨耗	車輪の交換（お買い求めの販売店へ）

⚠ **注 意**	破損・異常が発生した場合は、そのまま使用せずお買い求めの販売店にご連絡の上、点検・修理をお受けください。

10. 仕様

項目	仕様	
名称（型名）	ライフ フィット（FT-18A）	
全幅	51cm	
全長	66 ～72cm	
全高	72 ～ 92cm	
折りたたみ幅	46cm	
ハンドル高	72 ～ 92cm（6 段階調節）	
ハンドル内幅	38cm	
座面高	45 ～ 52.5cm（車輪パイプ部４段階調節）	
座面寸法	幅 30 X 奥行 30cm	
重量	6.9kg	
車輪径（前輪・後輪）	18cm	
バッグ寸法	幅 30 X 奥行 20 X 深さ 22cm	
耐荷重（最大使用者体重）	100kg	
制動 兼 駐車ブレーキ	ループブレーキレバー　タイヤ押付式	
材質	本体フレーム	アルミ
	ハンドグリップ	熱可塑性エラストマー（TPR）
	ブレーキレバー	ナイロン（PA）
	車輪（キャスター）	タイヤ：ウレタン（PU）　ホイール：ポリプロピレン（PP）
	バッグ	ナイロン

＊記載の重量や寸法は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

11. 廃棄

各自治体により分別方法が異なることがありますので、それぞれの指示に従って処分や廃棄を行なってください。

12. 保証とアフターサービス

1. 保証書

この製品には保証書をお付けしております。

<ご注意>弊社の定める保証とは、正常な使用状態において、故障が生じた場合に限り、
無償にて修理を行なうことをお約束するものです。

2. 保証対象とその期間

お買い上げ日より1年間（消耗部品を除く本体）

3. 保証期間後

お買い求めの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有償修理させていただきます。

4. 消耗部品

・車輪　・ブレーキー式　・ブレーキワイヤー　・背もたれ　・座面　・ベアリング　・ハンドグリップ
・バッグ　・折りたたみベルト　・杖ストラップ

5. 補修用部品の最低保有期間

弊社はこの製品の本体製造打ち切り後、５年間保有しています。
補修用部品とは、消耗部品を含むその製品の機能を維持するために必要な部品です。

6. 本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになるときは、必ずこの「取扱説明書」もあわせてお渡しください。購入された方以外の不特定多数の方がご利用になる場合は、保障対象外となります。

7. 一度使用したものは、原則として製品のお取替えはできません。

<お願い>異常や不具合が見つかった場合はただちに使用を中止して、
お買い求めの販売店までご連絡ください。

歩行車 ライフ フィット 保証書

取扱説明書の注意書きに従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無償修理いたします。
製品と本書をご持参のうえ、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。
製品の保管場所での出張修理や製品輸送の場合は、出張料や輸送費などの実費を申し受けます。

品名	ライフ フィット	型　名	FTー18A
※お買い上げ日	年　　月　　日		
保証期間と保証対象	本体お買い上げ日より　1年		
※お客様お名前		お電話番号	
ご住所	〒		
※販売店名			
ご住所	〒　　㊞		

※印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

<ご注意>

1. 保証の適用除外となる場合（保証期間内であっても次の場合には有償修理となります）
   ①製品の本来の使用目的に従わずして生じた故障・破損。
   ②改造や不当な修理による故障および損傷。
   ③弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損。
   ④ご使用による消耗品および取扱不注意による破損。
   ⑤火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、および公害、塩害、煙害、ガス害（硫化ガスなど）、などによる故障および損傷。
   ⑥お取り扱いの不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損。
   ⑦一般に歩行車が通行しない場所、または特殊な状態での使用による破損。
   ⑧取扱説明書に従わずして生じた故障破損。
   ⑨取扱説明書に禁じられている使用方法によって生じた故障破損。
   ⑩本書にお買い上げ年月日、お客様名および販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
2. 本書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
3. 本書は盗難・火災などの不可抗力以外で紛失された場合は、
   再発行いたしませんので、大切に保存・保管してください。

＊お客様にご記入いただいた記載内容は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。
＊この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。
従って、この保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明な場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

AIJ1508-FTV1

株式会社　エーアイジェイ
〒532-0004　大阪市淀川区西宮原２丁目7-38　TEL：06-6393-3622　FAX：06-6393-3822
http://www.aij-osaka.com